

坂城町埋蔵文化財調査報告書第22集

町内遺跡発掘調査報告書 2002

——平成14年度試掘調査報告書——

2003. 3

坂城町教育委員会

町内遺跡発掘調査報告書 2002

—平成14年度試掘調査報告書—

2003. 3

坂城町教育委員会

例 言

- 1 本書は長野県埴科郡坂城町における開発事業に伴う、平成14年度の町内遺跡の試掘調査報告書である。
- 2 調査の費用は、国庫及び県費の補助を得て町費で対応した。
- 3 調査の体制
調査指導者 塩入 秀敏（上田女子短期大学教授、日本考古学協会会員）
担 当 者 助川 朋広（坂城町教育委員会学芸員）
齋藤 達也（坂城町教育委員会学芸員）
協 力 者 朝倉 妙子、天田 澄子、坂巻ケン子、塚田 さゆり、萩野れい子（以上、町臨時職員）
- 4 事務局の構成
教 育 長 大橋 幸文
生涯学習課長 塚田 好
文化財係長 坂口 ふみ江
文 化 財 係 助川 朋広（前出）、齋藤 達也（前出）
朝倉 妙子、天田 澄子、坂巻 ケン子、塚田 さゆり、萩野 れい子（前出）
- 5 本書の執筆・編集は齋藤が行った。
- 6 本書及び調査に関する資料は、坂城町教育委員会の責任下において保管されている。

凡 例

- 1 本文中の面積は、開発対象面積と調査面積を記載し、（ ）内に調査面積を記載した。
- 2 挿図の縮尺は、各図ごとに縮尺を示した。

目 次

例言

凡例

第Ⅰ章 板城町の遺跡の立地と環境	1
第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	1
第Ⅱ章 調査の結果	6
1 上五明条里水田址10	6
2 中之条遺跡群 3	8
3 四ッ屋遺跡群 8	10
4 戌久保遺跡 2	13
5 閑臥遺跡 2	15
6 中之条遺跡群 4	17
報告書抄録	

第 I 章 坂城町の遺跡の立地と環境

第 1 節 地理的環境

坂城町は北信地方と東信地方の接合部にあり、善光寺平を構成する更埴地方の最南端に位置する。また、町は貫流する千曲川の氾濫によって形成された氾濫原と、千曲川に流れ込む小河川がつくりだす扇状地によって形成された坂城盆地の幅広い貫通谷に立地している。町の北から東にかけては五里ヶ峰・大峰山・虚空蔵山をはじめとする標高1100～1300m前後の山々が連続し、更埴市・真田町・上田市との市町村界を形成し、西は大林山、三ツ頭山などの標高1000m前後の山々が連続し、上山田町・上田市との市町村界となっている。南は千曲川右岸の岩鼻と左岸の半過の岩鼻が険峻な地形を形成し、上田盆地と隔てられている。このような地形から、古来よりこの地域は千曲川流域の要衝の地として注目されてきた。

この地域の気候は、南北に開けた小盆地状をなしていることから、季節風の影響を受けやすいため、夏季は南風、冬季は北風が強い。また、盆地状になっていることから寒暖の差が大きい。降水量は少なく、日本で最も雨量の少ない地域の一つとされている。現在では、この気候を生かして、工業が主要な産業となっており、農業では、バラ・ぶどうの栽培が盛んである。

第 2 節 歴史的環境

ここで、坂城町の各時期について代表的な遺跡を挙げつつ、町の歴史的環境について概略的に触れておくこととする。(括弧内の数字は3、4ページの坂城町遺跡分布図における遺跡番号を示す)

坂城町で最古の遺物は、約14,000～15,000年前の後期旧石器時代の上ヶ屋型彫刻器とされる石器である。この石器は保地遺跡(1-3)より採集されたもので、これ以外に後期旧石器時代の遺物は確認されていない。

縄文時代の遺構・遺物では早期押型文系の土器が和平安遺跡や平沢遺跡で採集されている。また、平成12年度に発掘調査が実施された込山C遺跡(30-3)からも押型文系の土器片が出土しているが、これらは現在整理中である。この他に込山C遺跡では縄文時代前期・中期の土器も確認されている。後期・晩期では、学史的にも有名な保地遺跡が挙げられる。保地遺跡は昭和40年度と平成11年度に発掘調査が実施されている。前者は縄文時代後期後半から晩期後半までの土器・石器群と、後期後半に属するとされる特殊儀礼的遺構の出土が『考古学雑誌』に報告されている(関 1966)。後者については、縄文時代後期に位置づけられる再葬墓が検出されており、1基内に少なくとも19個体分の人骨が出土した。他には、込山D遺跡(30-4)から昭和初期に採集された遮光器土偶の頭部が挙げられる。

弥生時代では、中期以前の調査例がないため状況は不明である。後期後半では、平成5年度に南条地区の塚田遺跡(1-7)で発掘調査が実施され、この時期に属する竪穴住居址36棟をはじめとする遺構と、土器、石器、土製品、及び鉄器などが出土している。

古墳時代では、前期古墳は確認されていないが、中期古墳には仮称東平1号墳・2号墳が挙げられる(註1)。これらは、平成5年度に実施された上信越自動車道建設に伴う発掘調査で、埴輪や土器などの出土から、1号墳は5世紀第2四半期後半、2号墳は5世紀第2四半期前半に位置付けられた(若林 1999)。後期古墳では、町内でもいくつかの古墳群の存在が知られているが、中でも代表的なものは村上地区の福沢古墳群小野沢支群に属する御厨社古墳である。内部施設に千曲川水系最大の横穴式石室を持ち、室全長11.2mを測り、

勾玉や切子玉、耳環などが出土している。古墳時代後期の集落・祭祀遺跡では、環状に配列された土器群が検出され、全国的にも注目された青木下遺跡（1-8）が代表的である。青木下遺跡は現在整理中である。

奈良時代・平安時代の遺跡では、中之条地区の中之条遺跡群（8）とその周辺遺跡に多くの調査例があり、この地域における奈良・平安時代の状況が徐々に解明されつつある。具体的には、寺浦遺跡（8-1）、豊船堂遺跡（20）、上町遺跡（8-2）、東町遺跡（8-3）、宮上遺跡（8-5）、北川原遺跡（8-6）、開畝遺跡（21）で調査が実施され、古墳時代後期後半～平安時代までの集落遺構と遺物が多数出土している。また、平安時代の生産遺跡として坂城地区の上井ノ入窯跡（32）があり、瓦の生産が行われていたことが分かっている。ここで生産された瓦は、現在の坂城小学校がある場所に8世紀末から9世紀頃に存在していたとされる込山廃寺（54）に用いられたほか、上田市信濃国分寺・国分尼寺、更埴市正法廃寺の補修用の差し瓦として使用されていたことが判明している。

中世に入ると、平安時代後期、寛治8年（嘉保元）（1094）に村上地区に配流されてきた源盛清が後に村上氏として勢力を持つようになり、戦国時代には村上義清が活躍するようになった。義清の頃、村上氏の居館は現在の満泉寺一帯に所在したとされ、その背後にそびえる葛尾山の山頂には、義清が使用した葛尾城跡があるが現存していない。このほか、中世の遺跡では坂城地区の観音平経塚（55）をはじめとする経塚と中之条地区の開畝製鉄遺跡（53）がある。観音平経塚は昭和54年と平成4年に調査がおこなわれたが、平成4年の調査では、経塚の年代は14世紀第2四半期とし、その周辺の五輪塔群の造営時期は14世紀第2四半期から16世紀前半頃に位置付けられている（若林 1999）。開畝製鉄遺跡は、昭和52・53年に坂城町教育委員会によって学術調査が実施され、16世紀頃の製鉄炉址2基が確認されている。この調査は県内初の製鉄遺跡の学術調査として学史に位置付けられる。

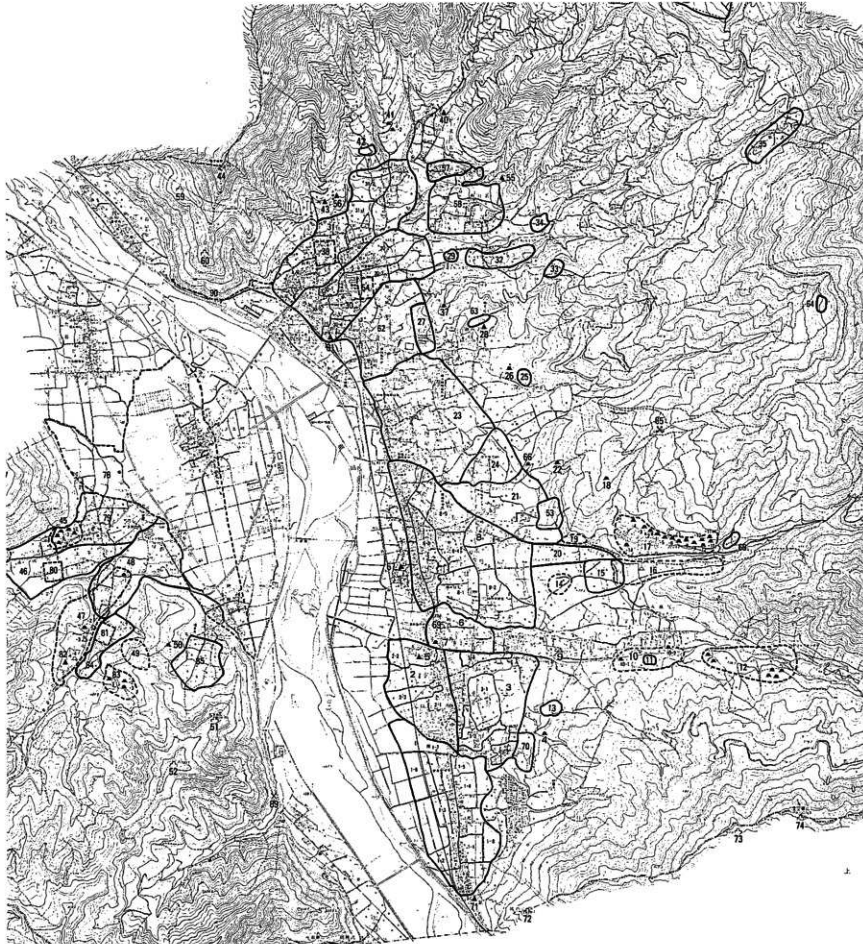
近世、江戸時代に入ると、現在の坂城地区と中之条地区を主体とする坂木村、中之条村には幕府代官所が置かれ、以後明治維新まで天領として支配された。この地域を重要視していたことがこのことからうかがわれる。代官所は最初、坂木（61）に置かれたが、明和4年（1767）に焼失し、その後、安永8年（1779）中之条に代官所（67）が置かれるようになった。

以上、坂城町の歴史について概略した。

註1 周知の御意川古墳群東平支群1号墳・2号墳とは異なる可能性があるため、仮称とされている。今後、正式な古墳名称の確定が必要である。

参考文献（五十音順・敬称略）

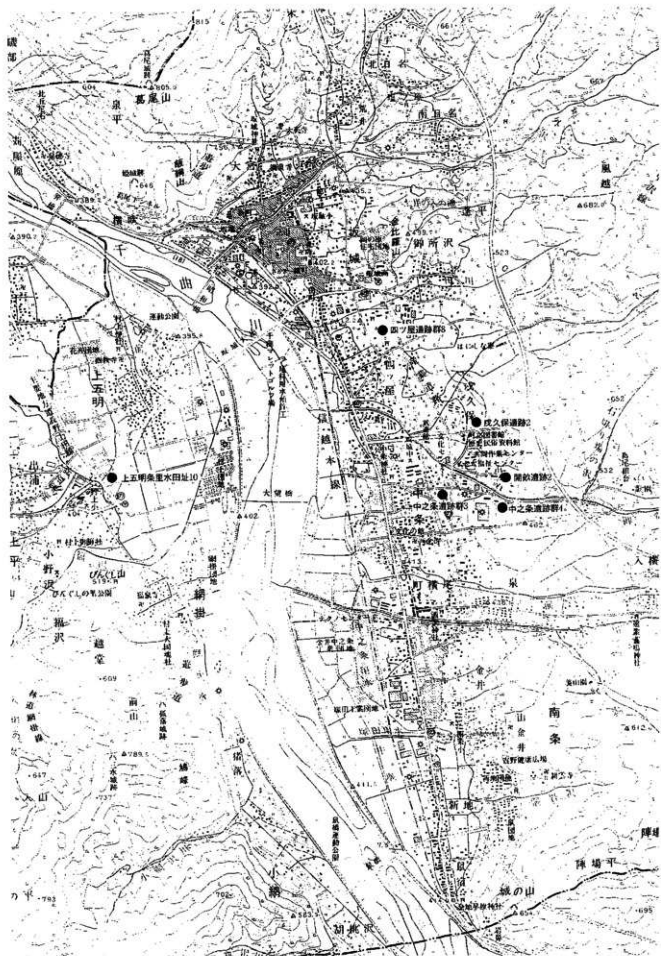
- 坂城町教育委員会 1978『開畝製鉄遺跡―第1次調査報告』1979『開畝製鉄遺跡―第2次調査報告』1983『宮上遺跡Ⅱ』1995『東郷遺跡』1996『各船堂遺跡・上町遺跡・寺浦遺跡・東町遺跡』1996『寺浦遺跡Ⅱ』2000『開畝遺跡Ⅲ』2001『宮上遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』2002『保地遺跡Ⅱ』
- 岡 孝一 1966『長野県埴科郡保地遺跡発掘調査概報』『考古学雑誌』第51巻第3号
- 森嶋 聡ほか 1981『坂城町誌』中巻 歴史編(1)
- 柳沢 亮 1998『第5節 開畝遺跡』『北野新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書2』財団法人長野県埋蔵文化財センター
- 若林 卓 1999『第9章 東平古墳群』『第11号 観音平経塚』『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書21』財団法人長野県埋蔵文化財センター



坂城町道跡分布図

図面番号	道跡名	種別	時代
1	南島遺跡群 遺跡址	弥生~平安	
-1	南島遺跡群 遺跡址	弥生~平安	
-2	南島遺跡群 遺跡址(遺物)	弥生~平安	
-3	南島遺跡群 瓦葺遺跡	弥生~平安	
-4	南島遺跡群 中町遺跡(新橋)	弥生~平安	
-5	南島遺跡群 中町遺跡	弥生~平安	
-6	南島遺跡群 中町遺跡	弥生~平安	
-7	南島遺跡群 弥生遺跡(遺物)	弥生~平安	
-8	南島遺跡群 弥生遺跡	弥生~平安	
-9	金井町遺跡群 遺跡址	縄文~平安	
-10	金井町遺跡群 金井遺跡	縄文~平安	
-11	金井町遺跡群 北谷遺跡	縄文~平安	
-12	金井町遺跡群 山本遺跡	縄文~平安	
-13	金井町遺跡群 大赤久保遺跡(南赤久保分校敷地)	縄文~平安	
-14	金井町遺跡群 遺跡址	縄文~平安	
4	坂之神野	野	中世
5	阿保遺跡群	弥生~平安	
6	北山遺跡	弥生(後期)	
7	中ノ島遺跡群	縄文~平安	
8	中之島遺跡群 寺原遺跡	弥生~平安	
-2	中之島遺跡群 上野遺跡	弥生~平安	
-3	中之島遺跡群 北山遺跡	弥生~平安	
-4	中之島遺跡群 北山遺跡	縄文~平安	
-5	中之島遺跡群 北山遺跡	縄文~平安	
-6	中之島遺跡群 北山遺跡	縄文~平安	
9	新井谷遺跡群(新六宮)	弥生(後期)	
10	新井谷遺跡群	弥生(後期)	
-11	新井谷遺跡群 入橋東支所 内田遺跡	弥生(後期)	
-12	新井谷遺跡群 入橋東支所 刈草遺跡	弥生(後期)	
11	入橋東支所	弥生(後期)	
12	新井谷遺跡群 上原遺跡	弥生(後期)	
13	新井谷遺跡群	弥生(後期)	
14	御堂川谷遺跡群 山口支所	弥生(後期)	
15	山崎遺跡群	弥生(後期)	
16	御堂川谷遺跡群 山崎支所	弥生(後期)	
17	御堂川谷遺跡群 前山支所	弥生(後期)	
-1	御堂川谷遺跡群 前山1号墳	弥生(後期)	
-2	御堂川谷遺跡群 前山2号墳	弥生(後期)	
-3	御堂川谷遺跡群 前山3号墳	弥生(後期)	
-4	御堂川谷遺跡群 前山4号墳	弥生(後期)	
-5	御堂川谷遺跡群 前山5号墳	弥生(後期)	
-6	御堂川谷遺跡群 前山6号墳	弥生(後期)	
-7	御堂川谷遺跡群 前山7号墳	弥生(後期)	
-8	御堂川谷遺跡群 前山8号墳	弥生(後期)	
-9	御堂川谷遺跡群 前山9号墳	弥生(後期)	
-10	御堂川谷遺跡群 前山10号墳	弥生(後期)	
-11	御堂川谷遺跡群 前山11号墳	弥生(後期)	
-12	御堂川谷遺跡群 前山12号墳	弥生(後期)	
-13	御堂川谷遺跡群 前山13号墳	弥生(後期)	
-14	御堂川谷遺跡群 前山14号墳	弥生(後期)	
18	御堂川谷遺跡群 坂手支所 二塚古墳	弥生(後期)	
19	御堂川谷遺跡群 山崎支所	弥生(後期)	
20	御堂川谷遺跡群(山崎支所遺跡)	弥生~弥生	
21	御堂川谷遺跡群	弥生(後期)	
22	人原支所	弥生(後期)	
23	阿保遺跡群	弥生~平安	
24	阿保遺跡群	弥生~平安	
25	阿保遺跡群	弥生~平安	
26	阿保遺跡群(御前谷遺跡)	弥生(後期)	
27	金井町遺跡群	弥生~平安	
28	金井町遺跡群	弥生(後期)	
29	阿保遺跡群	弥生(後期)	
30	山崎遺跡群	縄文~平安	
-1	山崎遺跡群 山崎山遺跡(水上)	弥生~平安	
-2	山崎遺跡群 山崎山遺跡(山崎支所)	弥生~平安	
-3	山崎遺跡群 山崎山遺跡(山崎)	弥生~平安	
-4	山崎遺跡群 山崎山遺跡(新橋)	弥生~平安	
-5	山崎遺跡群 山崎山遺跡(立町)	弥生~平安	
31	日名沢遺跡群	弥生~平安	
-1	日名沢遺跡群 日名沢遺跡	弥生~平安	
-2	日名沢遺跡群 丸山遺跡	弥生~平安	
32	土井ノ入遺跡群	弥生~平安	
33	阿保遺跡群	弥生	

図面番号	道跡名	種別	時代
34	畑外遺跡群	弥生	平安
35	平澤遺跡群	弥生(後期)	縄文
36	小野沢遺跡群	弥生(後期)	縄文
-1	和乎遺跡群 和乎山遺跡	弥生(後期)	縄文~平安
-2	和乎遺跡群 和乎山遺跡	弥生(後期)	弥生
-3	和乎遺跡群 和乎山遺跡	弥生(後期)	弥生
37	本山遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
38	村上氏遺跡群	弥生(後期)	縄文
39	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
40	本名古墳群	弥生(後期)	弥生(後期)
-1	本名古墳群 本名古墳1号墳	弥生(後期)	弥生(後期)
-2	本名古墳群 本名古墳2号墳	弥生(後期)	弥生(後期)
42	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
43	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
44	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
45	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
-1	和乎遺跡群 和乎支所1号墳	弥生(後期)	弥生(後期)
-2	和乎遺跡群 和乎支所2号墳	弥生(後期)	弥生(後期)
-3	和乎遺跡群 和乎支所3号墳	弥生(後期)	弥生(後期)
-4	和乎遺跡群 和乎支所4号墳	弥生(後期)	弥生(後期)
-5	和乎遺跡群 和乎支所5号墳	弥生(後期)	弥生(後期)
-6	和乎遺跡群 和乎支所6号墳	弥生(後期)	弥生(後期)
-7	和乎遺跡群 和乎支所7号墳	弥生(後期)	弥生(後期)
46	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
47	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
-1	和乎遺跡群 小野沢支所1号墳(御前谷支所)	弥生(後期)	弥生(後期)
-2	和乎遺跡群 小野沢支所2号墳	弥生(後期)	弥生(後期)
-3	和乎遺跡群 小野沢支所3号墳(ヤクラ支所)	弥生(後期)	弥生(後期)
-4	和乎遺跡群 小野沢支所4号墳	弥生(後期)	弥生(後期)
48	小野沢遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
49	和乎遺跡群 和乎支所	弥生(後期)	弥生(後期)
50	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
51	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
52	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
53	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
54	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
55	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
56	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
57	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
58	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
59	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
60	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
61	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
62	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
63	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
64	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
65	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
66	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
67	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
68	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
69	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
70	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
71	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
72	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
73	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
74	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
75	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
76	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
77	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
78	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
79	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
80	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
81	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
82	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
83	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
-1	和乎遺跡群 和乎支所1号墳	弥生(後期)	弥生(後期)
-2	和乎遺跡群 和乎支所2号墳	弥生(後期)	弥生(後期)
-3	和乎遺跡群 和乎支所3号墳	弥生(後期)	弥生(後期)
84	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
85	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
86	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
87	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
88	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
89	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)
90	和乎遺跡群	弥生(後期)	弥生(後期)



試掘調査位置図 (1 : 25000)

第Ⅱ章 調査の結果

1 上五明条里水田址10

所在地	坂城町大字上五明610番地ほか
事業主体	ちくま農業共同組合
事業名	店舗建設事業
調査期間	平成14年5月7日～ 平成14年5月27日
面積	9738㎡ (1130㎡)
担当者	齋藤達也



試掘調査位置図 (1 : 2500)

遺跡の環境と調査にいたる経緯

上五明条里水田址は坂城町大字上五明、網掛、上平に所在する。本址は、千曲川によって形成された沖積地上に立地し、標高400m内外を測る。

同遺跡内では、現在までのところ試掘調査は5回、発掘調査が4回実施されている。平成6、8年度の発掘調査(上五明条里水田址Ⅰ・Ⅱ)では、仁和4年(888年)に起こったとされる「仁和の洪水」に伴う氾濫砂層に被覆された水田址が検出されている。また、平成9年度の発掘調査(上五明条里水田址Ⅲ)では9世紀末から11世紀に位置づけられる竪穴住居址や土坑址が検出されている。平成12年度に実施された発掘調査(上五明条里水田址Ⅳ)では、近世以降に位置づけられる水田址、土坑址が検出されている。

今回の試掘調査は、ちくま農業協同組合がこの地に店舗の建設を計画したことにより、遺跡が破壊される恐れが生じたため、遺構・遺物の有無を確認するために実施したものである。本址は平成9年度の発掘調査地点の北西側には隣接する。



1号トレンチ検出状況(南より)



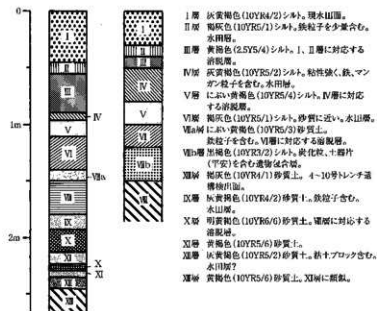
6号トレンチ検出状況(北より)

調査結果

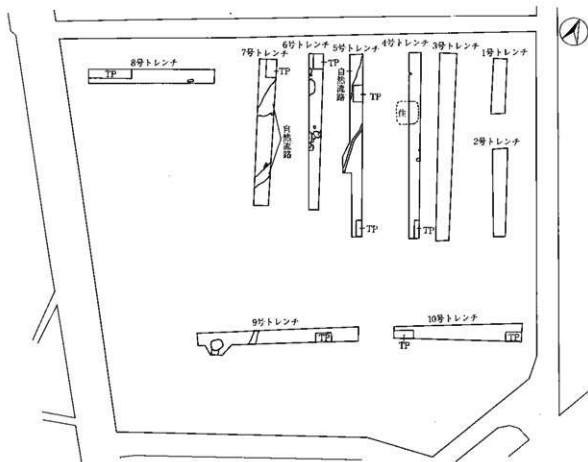
店舗建設部分を中心に10本のトレンチを設定して遺構・遺物の確認を行った。

試掘調査の結果、開発対象地内東側に設定した1、2、10号トレンチでは断面で水田層を確認した。さらに、中央から西側に設定した3～9号トレンチではⅧ層上面で住居址や土坑址を検出した。これらの遺構は、出土した土器片から奈良～平安時代に位置づけられるものであった。

この結果を基に、事業主体者であるちくま農業協同組合と協議を行ったところ、店舗は、遺構を保護するための盛土を施した上に建設されることとなり、遺跡は保存されることとなった。



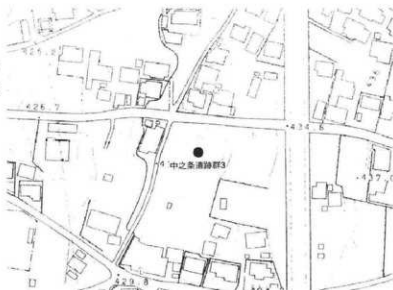
基本層序模式図



試掘トレンチ設定図 (1 : 900)

2 中之条遺跡群 3

所在地	坂城町大字中之条1040-1,1041
事業主体	前沢 厚、日本勤労者住宅協会
事業名	集合住宅建設、宅地造成
調査期間	平成14年 5月15日～ 平成14年 5月23日
面積	2460㎡ (450㎡)
担当者	齋藤達也



試掘調査位置図 (1 : 2500)

遺跡の環境と調査にいたる経緯

中之条遺跡群は、坂城町遺跡分布図によると、縄文から平安時代の集落址とされている遺跡群で、御堂川によって形成された扇状地上に立地する。近隣では、坂城中学校建設に伴って実施された宮上遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳや、診療所建設に伴って実施された北川原遺跡Ⅱの発掘調査例があり、いずれも古墳から平安時代の集落址が検出されている。

今回、前沢厚氏が、中之条1040-1番地に集合住宅の建設を計画し、また隣接する中之条1041番地では、日本勤労者住宅協会が宅地造成を計画したため、遺跡が破壊される恐れが生じたことから、試掘調査を実施して遺構・遺物の有無を確認することとなった。なお、別事業ではあるが、対象地が隣接しているため、試掘調査は一括して実施することとした。調査地点は宮上遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの南東約150m、北川原遺跡Ⅱの北西約40mであり、2つの調査地点の中間に位置する。



1号トレンチ検出状況 (東より)



2号トレンチ検出状況 (東より)

調査結果

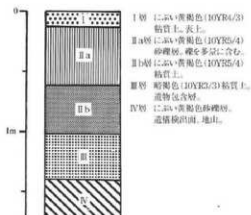
2つの開発対象地に計4本のトレンチを設定し、遺構・遺物の確認を行った。1、2号トレンチが日本勤労者住宅協会開発部分、3、4号トレンチが前沢厚氏開発部分にあたる。

調査の結果、遺構・遺物は、全てのトレンチで確認された。しかし、いずれのトレンチでも自然流路跡が検出されており、遺構の一部はそれらに破壊されている状況が看取された。遺構は堅穴住居址7棟、掘立柱建物址5棟をはじめとして、土坑址、ピットが検出されている。遺物は古墳時代から平安時代の土師器・須恵器片が出土しており、検出された遺構も遺物と同時期に属するものと思われる。この結果は、先述した宮上遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳや北川原遺跡Ⅱでも、同時期の遺構・遺物が自然流路跡に一部破壊された形で検出されていることから、この時期の集落の広がり、及び御堂川の氾濫の歴史等を検討していく上で貴重な成果が得られたものといえる。

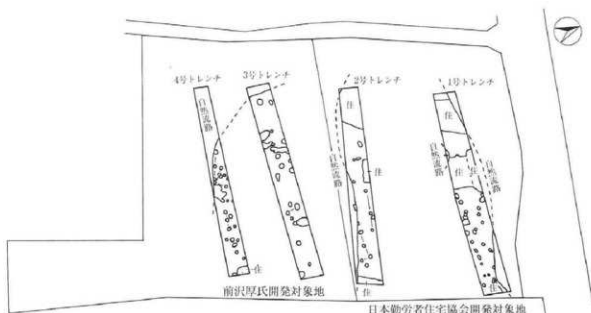
この結果を受けて、それぞれの事業主体者と遺跡の保護措置について協議したところ、掘削しても遺構を破壊しないように盛土を施すことが決まり、遺跡は保護されることとなった。



4号トレンチ検出状況（東より）



基本層序模式図



試掘トレンチ設定図（1：600）

3 四ツ屋遺跡群 8

所在地	坂城町大字坂城字山王6802
事業主体	竹鼻孝夫
事業名	集合住宅建設
調査期間	平成14年9月18日～ 平成14年9月20日
面積	1385㎡ (250㎡)
担当者	齋藤達也



試掘調査位置図 (1 : 2500)

遺跡の環境と調査にいたる経緯

四ツ屋遺跡群は御堂川と名沢川によって形成された扇状地の扇中部に位置する。坂城町遺跡分布図によると、縄文時代から平安時代の集落址とされている。四ツ屋遺跡群は、平成10年度、12年度(2回)、平成13年度(4回)の計7回、いずれも小規模ではあるが、開発に伴う試掘調査が実施されており、近年宅地化が進んでいる地域といえる。しかし、いずれの調査でも、遺構・遺物が全く検出されないか、少ない状況で、遺跡群の詳細は依然として不明な部分が多い。(12ページ参照)

今回は、竹鼻孝夫氏が集合住宅の建設を計画したため、遺跡が破壊される恐れが生じた。そのため、試掘調査を実施して、適切な保護措置を講ずることとなった。今回の調査地点は平成13年度に実施した四ツ屋遺跡群4の調査地点の南側に隣接している。



表土剥ぎ (北東より)

調査結果

東西方向に3本のトレンチを設定して遺構・遺物の検出作業を行ったところ、いずれのトレンチでも地表下50～90cmの深度で遺構が確認され、竪穴住居址2棟、ピット15基が検出された。遺物については土器片が数点出土したのみである。細片のため、所属時期を決



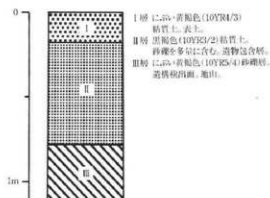
1号トレンチ住居址検出状況 (南より)

めることはできないが、土師器片と思われるため、古墳時代から平安時代の間には位置づけられよう。そのため、検出された遺構も同時期のものと考えられる。

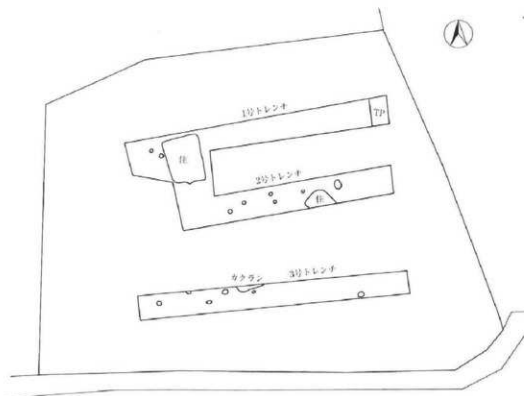
この結果をもとに竹鼻氏と保護措置について協議したところ、集合住宅は、建築に係る基礎工事が遺跡に影響を及ぼさないよう盛土を施してから建設することとなり、遺跡は保護されることとなった。



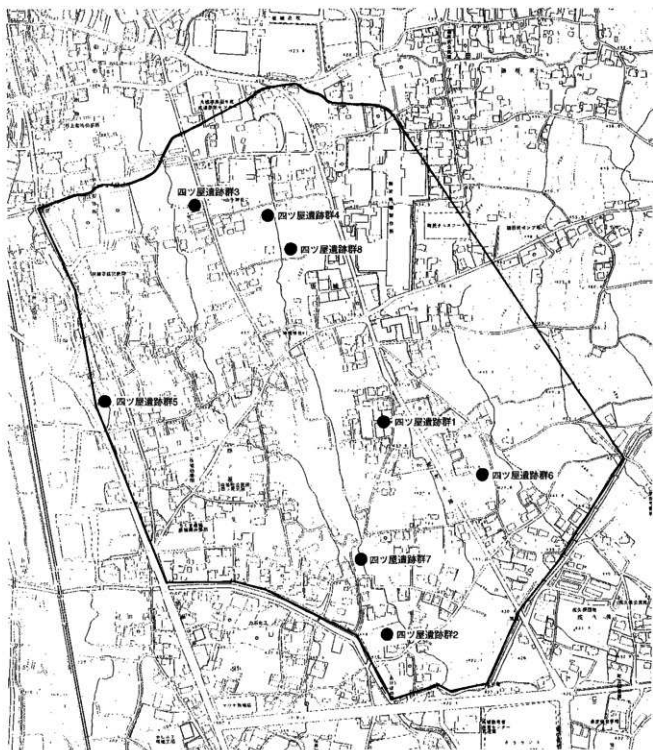
1号トレンチ住居址検出状況(南より)



基本層序模式図



試掘トレンチ設定図(1:600)



四ツ屋遺跡群1～8 試掘調査位置図（1：6000）

調査名	年度	調査原因	検出された遺構	出土遺物
四ツ屋遺跡群1	平成10年度	宅地造成	遺物(包含層のみ確認)	土器(縄文)
四ツ屋遺跡群2	平成13年度	福祉施設建設	なし	なし
四ツ屋遺跡群3	平成13年度	コミュニティ消防センター建設	特殊遺構1基	土器(細片のみ、時期不明)、石鉢(中世～)
四ツ屋遺跡群4	平成14年度	集合住宅建設	土坑址1基、ピット12基	土器(細片のみ、時期不明)
四ツ屋遺跡群5	平成14年度	店舗建設	なし	なし
四ツ屋遺跡群6	平成14年度	農道建設	なし	なし
四ツ屋遺跡群7	平成14年度	集合住宅建設	掘立柱建物址1棟、ピット13基	なし
四ツ屋遺跡群8	平成15年度	集合住宅建設	竪穴住居址2棟、ピット15基	土器(古墳～平安)

4 戊久保遺跡 2

所在地	坂城町大字坂城字戊久保8949-1
事業主体	坂城町土地開発公社
事業名	宅地造成
調査期間	平成14年9月24日～ 平成14年9月25日
面積	715㎡ (200㎡)
担当者	齋藤達也



試掘調査位置図 (1 : 2500)

遺跡の環境と調査にいたる経緯

戊久保遺跡は名沢川によって形成された扇状地上に位置しており、坂城町遺跡分布図によると、古墳時代から平安時代の集落址とされている。戊久保遺跡は宅地造成に伴い、平成3年度に発掘調査が実施されており、土坑址やピット等が検出され、平安時代を主体とする古墳時代後期から平安時代の集落遺跡であることが判明している。

今回、坂城町土地開発公社がこの地に宅地造成を計画したため、遺跡が破壊される恐れが生じたことから、試掘調査を実施して遺構・遺物の確認を行うこととなった。開発対象地は標高約440mで、平成13年度発掘調査地点から約50m東に位置する。



1号トレンチ検出状況 (北より)

調査結果

開発対象地は、南に傾斜している地形のため、南北にトレンチを2本設定して遺構の確認を行った。遺構は地表下30～50cmの表土層の下、II層上面で検出された。遺物包含層は確認できなかった。検出された遺構は土坑址とピットで、竪穴住居址は検出されなかった。遺物は土師器、須恵器が出土しているがいずれも小片である。そのため、詳細な所属時期は不明であるが、古墳時代から平安時代に位



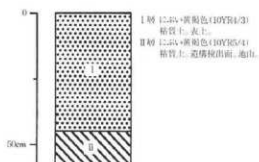
1号トレンチ検出状況 (南より)

置づけられるものと思われる。この検出状況は平成3年度の発掘調査と同様な傾向を示しており該期の集落は別に営まれていたと考えられる。

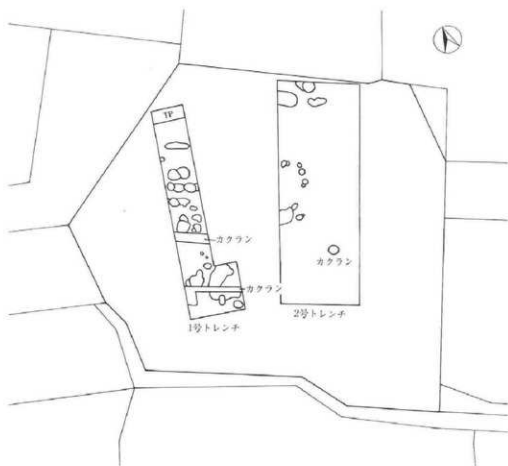
以上のことから、開発対象地は遺跡であることが判明し、開発の実施には発掘調査等の措置が必要となった。



2号トレンチ検出状況（北より）



基本層序模式図



試掘トレンチ設定図（1：300）

5 開畝遺跡2

所在地	坂城町大字中之条字開畝2164
事業主体	坂城町建設課
事業名	町営住宅建設
調査期間	平成14年11月18日～ 平成14年11月22日
面積	7393㎡ (650m)
担当者	齋藤達也

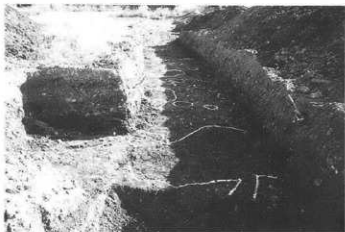


試掘調査位置図 (1 : 2500)

遺跡の環境と調査にいたる経緯

開畝遺跡は御堂川によって形成された扇状地上の扇中央部に立地する。遺跡内には県内初の製鉄遺跡の学術調査例として有名な開畝製鉄遺跡がある。また、同遺跡内では平成11年度に店舗建設に伴って発掘調査が実施され、古墳時代から平安時代の集落址が検出された開畝遺跡Ⅲの調査がある。

今回、坂城町建設課が町営住宅の建設を計画し、遺跡が破壊される恐れが生じたため、試掘調査を実施して、遺構・遺物の有無を確認することとなった。開発対象地は開畝製鉄遺跡の西約150mに位置し、標高は450m内外を測る。



1号トレンチ検出状況 (西より)

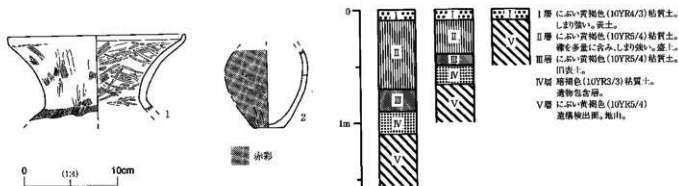
調査結果

開発対象地は過去に対象地東側を大幅に削平し、南西側に盛土された状況であったため、東側の遺構は破壊されている可能性が高いと思われた。そのため、対象地南西側を中心にトレンチを設定した。その結果、3号トレンチを除く他のトレンチで遺構、遺物が検出された。中でも、対象地南西側の1、2号トレンチからは竪穴住居址、土坑址、ピットが多く検出されている。また、遺物についても弥生時代後期後半の土器を中心に縄文時代から



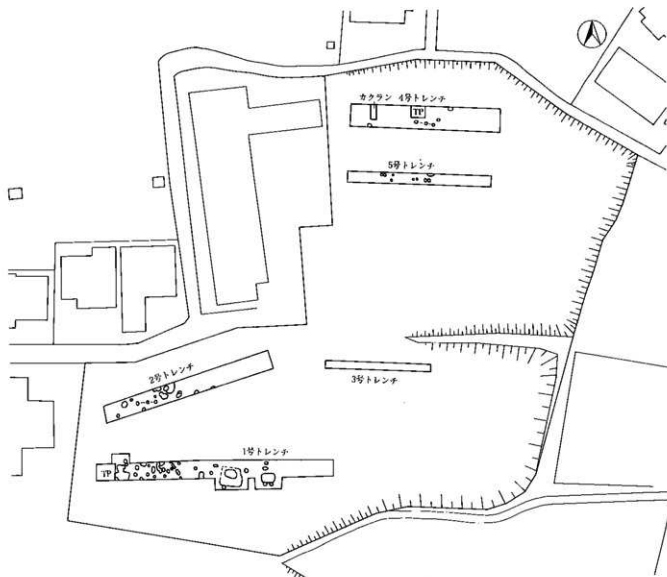
2号トレンチ検出状況 (北東より)

平安時代にかけての土器と、全て破片であるが黒曜石製の石器が出土した。これらのことから、対象地には擾乱を受けつつも遺構が残っていることが判明した。



1号トレンチ出土土器実測図

基本層序模式図



試掘トレンチ設定図 (1 : 800)

6 中之条遺跡群 4

所在地	坂城町大字中之条1375-1ほか
事業主体	株式会社ウインタック
事業名	工場建設
調査期間	平成15年2月17日～ 平成15年2月20日
面積	3590㎡ (780㎡)
担当者	齋藤達也



試掘調査位置図 (1:2500)

遺跡の環境と調査にいたる経緯

中之条遺跡群は、御堂川によって形成された扇状地上に位置する縄文時代から平安時代の遺跡群である。本遺跡群内では、寺浦遺跡、上町遺跡、東町遺跡、宮上遺跡、北川原遺跡で発掘調査が実施されており、古墳時代から平安時代にかけての集落の状況が徐々に解明されてきている。

今回の試掘調査は、株式会社ウインタックがこの地に工場の建設を計画したため、開発対象地の遺跡の状況を把握して、適切な保護措置をとるために実施したものである。開発対象地は、中之条遺跡群のなかでも東端部に位置し、北側は御堂川にはほぼ隣接する。今年度試掘調査を実施した閑畝遺跡3の調査地は、御堂川をはさんで約150m北に位置し、同じく今年度試掘調査を実施した中之条遺跡群3は、開発対象地の約400m西に位置する。



2号トレンチ検出状況 (西より)



4号トレンチ検出状況 (南西より)

調査の結果

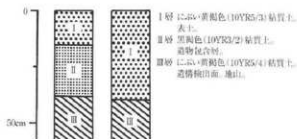
地形を考慮し、東西方向に5本のトレンチを設定して遺構・遺物の確認を行った。先述のように、対象地の北側は御堂川が流れているため、一番北側に設定した1号トレンチでは、一部で河川による浸食が見られたが、3号トレンチを除く各トレンチから遺構が検出

された。遺構は4号トレンチで多く検出され、
 竪穴住居址、掘立柱建物址などが検出された。
 遺物は、弥生土器と奈良時代から平安時代の
 土師器、須恵器が竪穴住居址や土坑址から出
 土した。これらのことから、開発対象地は弥
 生時代から平安時代の集落であることが判明
 した。調査区内の検出状況を見ると、北側は
 御堂川の影響を受けているためか遺構は少な
 く、南側に古墳～平安時代の集落が分布し
 ていることが看取された。

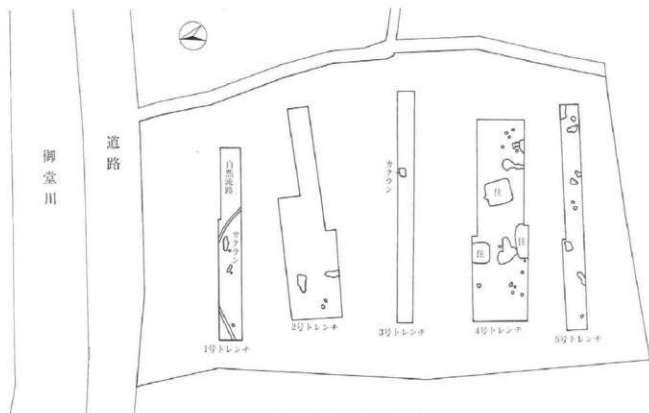


5号トレンチ検出状況（東より）

この結果を受けて、事業主体である株式会
 社ウインタックと協議を行い、遺跡の保護措置につ
 いて検討したところ、建物を建設する部分約1000㎡につ
 いて緊急に発掘調査を実施することが決定した。



基本層序模式図



試掘トレンチ設定図（1：600）

報告書抄録

ふりがな	ちょうないいせきはつつちょうさほうこくしょ
書名	町内遺跡発掘調査報告書 2002
副書名	平成14年度試掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	坂城町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第22集
編著者名	齋藤 達也
編集機関	坂城町教育委員会
所在地	〒389-0602 長野県埴科郡坂城町大字中之条2222 TEL 0268-82-1109
発行年月日	2003年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
上五明条里水田址10	坂城町大字上五明	1521		36°26'49"	138°10'20"	2002年5月7日 2002年5月27日	1130	店舗建設事業
中之条遺跡群3	坂城町大字中之条	1521		36°26'44"	138°11'49"	2002年5月16日 2002年5月23日	450	集合住宅建設事業 宅地造成事業
四ッ原遺跡群8	坂城町大字坂城	1521		36°27'20"	138°11'32"	2002年9月18日 2002年9月20日	250	集合住宅建設事業
戊久保遺跡2	坂城町大字坂城	1521		36°27'00"	138°11'58"	2002年9月24日 2002年9月25日	200	宅地造成事業
間軌遺跡2	坂城町大字中之条	1521		36°26'47"	138°12'04"	2002年11月18日 2002年11月22日	650	町営住宅建設事業
中之条遺跡群4	坂城町大字中之条	1521		36°26'42"	138°12'01"	2003年2月17日 2003年2月20日	780	工場建設事業

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上五明条里水田址10	生産遺跡 集落址	古墳～平安	水田址、竪穴住居址、土坑址、ピット	土師器、須恵器	
中之条遺跡群3	集落址	古墳～平安	竪穴住居址、掘立柱建物址、土坑址、ピット	土師器、須恵器	
四ッ原遺跡群8	集落址	古墳～平安	竪穴住居址、ピット	土師器	
戊久保遺跡2	集落址	古墳～平安	土坑址、ピット	土師器、須恵器	
間軌遺跡2	集落址	縄文～平安	竪穴住居址、掘立柱建物址、土坑址、ピット	縄文土器、弥生土器、土師器、石器	
中之条遺跡群4	集落址	弥生～平安	竪穴住居址、掘立柱建物址、土坑址、ピット	弥生土器、土師器、須恵器	

坂城町埋蔵文化財調査報告書

	『開成製鉄遺跡—第1次調査報告書』	1977
	『開成製鉄遺跡—第2次調査報告書』	1978
	『東裏遺跡』	1983
	『中之条遺跡群 宮上遺跡Ⅱ』（概報）	1993
	『南条遺跡群 塚田遺跡』	1993
第1集	『南条遺跡群 東裏遺跡Ⅱ・青木下遺跡』	1994
第2集	『町内遺跡発掘調査報告書』	1994
第3集	『町内遺跡発掘調査報告書』	1995
第4集	『南条遺跡群 塚田遺跡Ⅱ』	1995
第5集	『豊徳堂遺跡・上町遺跡・寺浦遺跡・東町遺跡』	1996
第6集	『中之条遺跡群 寺浦遺跡Ⅱ』	1996
第7集	『中之条遺跡群 上町遺跡Ⅱ』	1996
第8集	『上五明桑里水出址』	1996
第9集	『町内遺跡発掘調査報告書1995』	1996
第10集	『坂城町試掘調査・立会い調査報告書』	1996
第11集	『町内遺跡発掘調査報告書1996』	1997
第12集	『戊久保・町横尾遺跡』	1998
第13集	『込山Bほか 発掘調査報告書 1997』	1998
第14集	『町内遺跡発掘調査報告書1998』	1999
第15集	『町内遺跡発掘調査報告書1999』	2000
第16集	『開成遺跡Ⅲ』	2000
第17集	『中之条遺跡群 北川原遺跡Ⅱ』	2001
第18集	『町内遺跡発掘調査報告書2000』	2001
第19集	『中之条遺跡群 宮上遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』	2001
第20集	『金井東遺跡群 保地遺跡Ⅱ』	2002
第21集	『町内遺跡発掘調査報告書2001』	2002
第22集	『町内遺跡発掘調査報告書2002』（本書）	2003

発行日 2003年3月31日
 編集者 坂城町教育委員会
 〒389-0602 長野県埴科郡坂城町大字中之条2222
 TEL 0268 (82) 1109
 印刷者 信毎書籍印刷株式会社
 〒381-0037 長野県長野市西和田470
 TEL 026 (243) 2105

